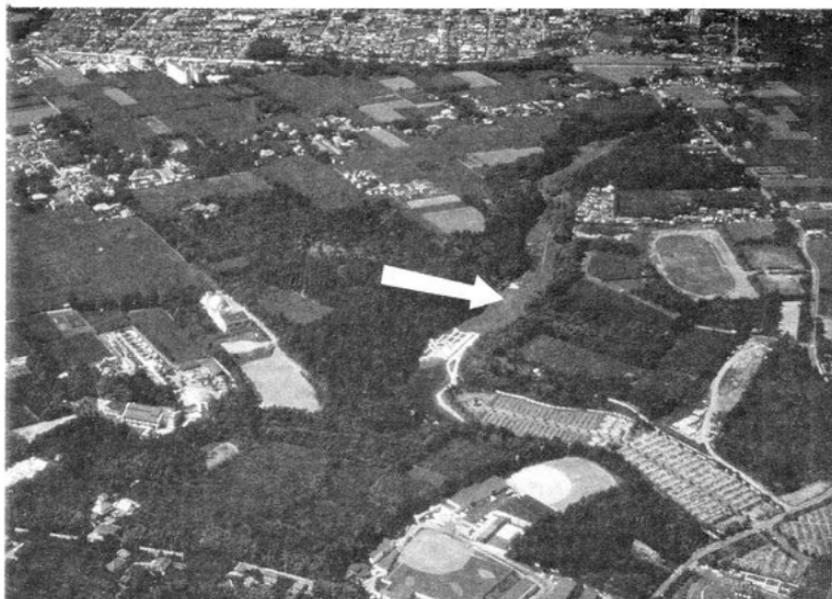


# 市川自然博物館

## 10・11月号 （通巻第34号） だより

やさしい生態学 4

### 『大町自然観察園』



▲中央から右上にのびる細長い谷が、大町自然観察園

# 『大町自然観察園』

～湧水が育む多様な自然～

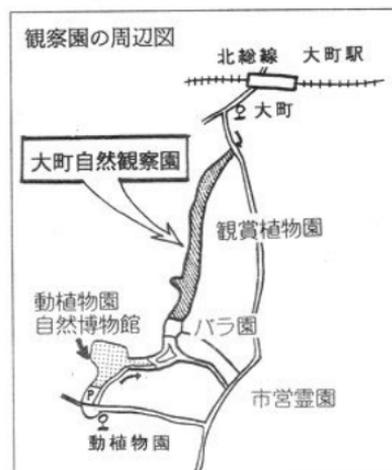
台地を樹状に刻み込んだ谷のことを、谷津（やつ）と呼びます。谷津には、豊富な湧水に育まれた多様な自然があります。しかし、近年埋め立てられることが多くなり、今では市内で谷津と呼ぶのにふさわしい場所は、大町自然観察園くらいになってしまいました。

今回は自然観察園で見られる、谷津の自然を紹介します。

## ●谷津と湧水

一般に谷津は、湿地とそこをとり囲む斜面地で構成され、自然観察園の場合では、湿地部分で長さ約1km、幅約50mにわたっています。周囲の台地上には、梨畑が広がっていて、これは雨水に由来する自然観察園の湧水にとって重要な存在となっています。

自然観察園の周辺に降った雨は、住宅地のように側溝を通して川へ流出することなく、広大な梨畑の地面に吸い込まれます。地中には、水を含みやすい地層があって、この地層がタンクの役目をして雨水を地下水として貯えます。自然観察園は台地を刻み込んだ谷ですから、この地下水を含んだ地層の切り口が斜面に表れていて、そこから水が湧き出します。湧き出し口は一ヵ所ではありません。斜面のすその、あちらこちらにあります。また、地層に含まれた水は少しずつ湧き出すので、今年のような渇水の夏でも、湧水が涸れることはありませんでした。



●湧水が作りだす湿地の環境 ——

自然観察園では、水の状態の違いにより、多様な環境が作りだされています。

谷の奥部や斜面のすそには、湧水の小さな流れがあります。湧水は温度が年中一定（15℃前後）なので、夏の暑さや冬の寒さにかかわらず、この流れは水温の変動が小さいこととなります。また、絶えず水が動いていることや水底が砂であることも、自然観察園の他の場所にはない特徴です。オニヤンマの幼虫やサワガニが見られたり、スナヤツメが産卵するのは、おもにこういった流れです。

谷を少し下ると、田んぼのような場所になります。開けた水面の、ごく浅い池がいくつかあり、ハスやコウホネ、ハナショウブが植えられています。湧水は、ここに流れ込むと、動きがゆるやかになりたまった状態になります。太陽の光が水底まで十分に届くため、特に春から秋

にかけては水が温められ、多量のプランクトンや微細な生物が発生します。そこから水生昆虫やカエル類、魚類や鳥類などによる複雑な食物連鎖が形成され、この一帯は自然観察園のなかでも、もっとも、多様な生物が見られる場所になっています。

谷の中央部では、湿地は中～大型の草に覆われます。大部分はヨシやカササゲで、ところどころにガマやマコモが混じり、全体に植生は単純です。枯れて湿地に厚く堆積した植物には、水がスポンジのように含まれています。しかし、水の流れやたまりが無いこと、空間が密にまわっていること、植生が単純なことなどによって、生物はそれほど多くありません。ただ、うっそうとしたヨシ原は、隠れ場所として役立っているようです。

湿地の一部には、ハンノキがまとまって生えている場所があります。ハンノキ



は、湿地に生育できる数少ない高木の一つで、最初は植栽しましたが、今では自然に増加しています。一昨年、このハンノキに囲まれた場所に池を掘ったところ、木々に囲まれた池を好むクロスジギンヤンマがすかさず産卵にやってきました。またハンノキがあると、種子を狙ってマヒワの群れが来ることもあります。この一群のハンノキは自然観察園の湿地にアクセントを与えているといえるでしょう。谷をさらに下ると、大きな池がありま

す。自然観察園で湧いた水がすべて集まる池で、年間を通じて水量は豊富です。この池は、数年前のバラ園の造成にともなって、ヨシ原を掘ってつくったものです。噴水があり、多数のコイが放され、現状では水草もほとんどない状態なので、残念ながら多様な生物が住み着くまでには至っていません。でも、カワセミやカモ類が見られるようになったのは、ヨシ原ばかりだった当時の自然観察園に出現した、この広い水面のおかげでした。

### 大町自然観察園への交通

#### ●北側入口

- ・北総線「大町」駅より徒歩10分
- ・京成バス「大町駅」行で、「大町」バス停下車、徒歩5分

※バスは、ともにJR総武線「本八幡」駅始発でJR武蔵野線「市川大野」駅経由

#### ●動物園側入口

- ・京成バス「動植物園」行で、「動植物園」バス停下車、徒歩5分

#### ●連続している湿地と斜面林

ここまで、おもに水の状態に着目してきました。しかし、自然観察園に多様な生物が生息できる要因は、湿地や池、湧水の流ればかりではありません。それらが斜面林と連続して存在し、ひとつの環境になっていることが重要です。

たとえばオニヤンマは、湧水のごく浅い流れに産卵し、幼虫は流れの砂底にもぐって暮らします。一方、成虫の休息場所には斜面林が利用され、交尾も木の枝にとまってなされます。つまり、産卵や成長の場としては湧水の流れが、休息や交尾の場としては斜面林が必要なのです。

湧き水の流れや池も含めた広い意味での湿地、そして斜面林、この2つの環境こそが谷津の環境であり、それらが巧み

に入り組んだ谷津は、自然観察園で見られるように多様な生物の貴重な生息場所なのです。

#### ●おわりに

湿地は、放置しておくとうどんどん状態が変わります。浅い池には草が生え、やがてカササゲやヨシが覆います。ヨシ原は場所によって乾燥し、クズやセイタカアワダチソウが侵入します。湧き水の流れも時とともに埋まっていきます。

自然観察園の多様な環境を維持するためには、人為的な管理が必要です。現在の自然を維持し、さらに豊かな生態系がつけられるように、試行錯誤が繰り返されています。

参考文献：『大町自然観察園』

(発行：市立市川自然博物館)

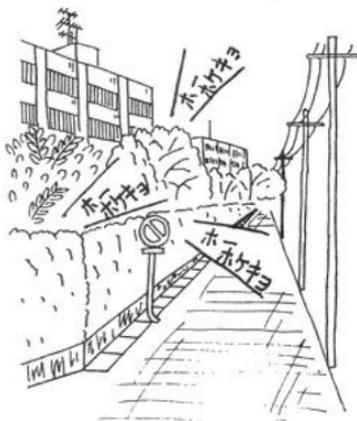


# 街かど自然探訪

おじゃまします!

幸・ウグイス (市民の鳥: 昭和51年決定) の声か...

塩田の跡地や埋立地が大半を占める行徳地区、緑を求めて庭や公園、マンションの一角などに木が植えられます。東京湾を間近に控えた幸も、こういった町並みのひとつです。ところでこれらの緑、じつは視覚的な効果だけではありません。冬から春にかけて市内全域で見られるウグイスにとって、これらの緑は身を潜める貴重な空間なのです。数年前の調査では、行徳地区でもウグイスのさえずりがかなり聞かれることがわかりました。その中には、幸からの報告もありました。



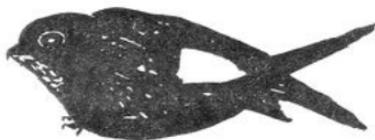
## 行徳野鳥観察舎

アマツバメ

静岡の路上で拾われたアマツバメが入院してから10日あまり。軽い衝突事故らしい。野外では空高く飛ぶ姿しか見たことがないが、間近で見るとなかなか面白い。ヨタカと同じく耳まで裂けた大口、指が前を向いた短い脚はコウモリそっくりで、足首まで毛が生えている。壁に止めるとどンドンよじのぼり、天井につかえると、もがいたあげく落ちてくる。

極端に長い翼のため、飛び立つには高いところから落下する勢いが必要だ。初めはただ、ぼとっと真下に落ちたが、このごろは、ぱたぱた羽ばたいて斜め下方に飛ぶようになり、少しずつ水平飛行に

## だより



文と絵・蓮尾 純子

近づいてきている。あと何日かのうちに、ベランダか屋上から思い切って落として飛ばせてみようかと思っている。

(野鳥観察舎 ☎0473(97)9046)

# いちかわの 野生生物

# アカネズミ

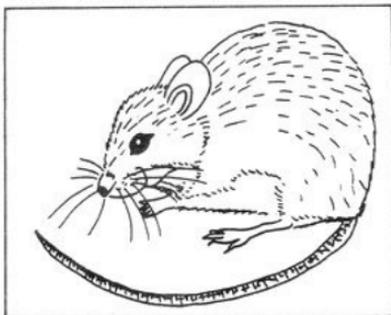
(Apodemus speciosus speciosus)

アカネズミは、林に暮らす中型のネズミで、その名が示すように背側が美しい茶褐色の体毛で覆われ、腹側は鼻の下面まで白い体毛が生えています。日本では、8つの亜種が生息し、市川では、ホンダアカネズミが雑木林などで普通にみられます。

アカネズミは群れをつくらず、単独で生活をしています。モグラのトンネルなどを上手に利用したりして地下に巣穴を掘りますが、ほとんどは地表ですごし、樹上に登ることはまずありません。

夜行性で、昆虫などの小型無脊椎動物や植物の種子を食べます。特にクヌギ、コナラなどのどんぐりを集めて、落ち葉の下や巣穴に貯めておいて食べる性質があり、種子の運搬や散布に貢献しているといわれています。

春から秋の間に何度も繁殖し、多数の子を産み育てますが、多くはイタチなどの肉食獣やフクロウなどの猛禽類に捕食され、増えすぎることはいないようです。



## やってみよう! みてみよう!

クリスマスやお正月に身近な植物をつかってリースを作ろう!

リースをかざろう!

① リースの台をつくる

クスやフジ、アケビのつるを2~3mほどにひきわらからいうちに余分な枝をはらい、くるくるに巻く。はじめはきつめに巻く。

クス、フジ、アケビ、あきじほ、みけはら、とねよ、林縁、みけはら、きつめに巻く。

② 公園や林でひろったものを台にのせる

赤い実、ヒラギ、マツ、おぼろぐわ、ススキの穂

などなんでもOK  
そのまましたり、はり金や造花用ワイヤーでつけたり、リボンをつけたりもいっけ

③ スプレー式透明ニスを吹かけ

11月の行事「やってみよう!みてみよう!」でリース作りをやりまわす。みんなきつね!

わたしの  
**観察ノート**  
No.16

◆大町自然観察園より

- ・ノジコ (♂1、♀1、不明1) を見ました (8/4)
  - ・サンバ6羽が、上空を帆翔していました (8/4 初認)
- 以上 須藤 治 (自然博物館)
- ・ウチワヤンマが産卵していました (8/7)

・今年生まれのホソミオツネトンボを見ました (8/7)

・お腹いっぱいの子ガニを抱えたサワガニを見ました (9/9)

以上 金子謙一 (自然博物館)

・秋の虫たちが、にぎやかです。  
アオマツムシ、クツワムシ、ハヤシノウマオイ、セスジツユムシ、ササキリ、カネタタキ、カンタン、エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、ツツレサセコオロギ、ミツカドコオロギ (9/7)

手塚真理 (自然博物館)

◆柏井雑木林より

・サンバが帆翔していました (9/3)

柏井研究講座のみなさん

◆こごと公園より

・チュウサギが飛来しました (8/1)

高畑道由さん (南大野在住)

◆北方遊水池より

- ・ノジコ1羽を見ました (7/27)
- 石井信義さん (菅野在住)
- ・池を好むトンボが見られました。  
チョウトンボ、ギンヤンマ、ウスバキトンボ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、アオモンイトトンボ、ウチワヤンマ (8/6)

金子謙一

◆堀之内貝塚公園より

- ・マヤランが咲いていました (7/28)
- 齋藤啓子さん (北国分在住)
- ・キツネノカミソリが咲いていました (8/10)

金子謙一

◆国府台より

- ・7月というのに、ウグイスがさえずっていました (7/12)
  - ・ヤブヤンマが飛来しました (8月)
- 以上 秋元久枝さん (国府台在住)

◆江戸川より

・川の杭で、ナゴヤサナエが羽化していました (7/25)

金子謙一

◆野鳥観察会より

・クマゼミが鳴いていました (7/30)

蓮尾純子さん (野鳥観察会)

みなさまの情報を  
お待ちしております。





# 10・11月の行事案内



☆ 申込み方法・・・往復はがきに参加したい行事名・参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、自然博物館までお申込みください。

## 自然観察会

○どなたでも参加できます。申込み先着20名。

月日	内容	場所	時間	受付開始日
10月16日	雑木林の植物	柏井雑木林	午前9時半 ～11時半	10月1日～
11月6日	低地の地形観察	行徳周辺		10月15日～
12月11日	千潟の野鳥観察	江戸川放水路		11月15日～

## やってみよう！ みてみよう！

○対象 小学生と保護者

○申込み先着10組

月日	内容	場所	時間	受付開始日
11月12日	リースを飾ろう	自然博物館	午後1時	10月15日～
12月10日	木の葉でカードづくり	周辺	～4時	11月15日～

## 博物館セミナー (考古・歴史・自然博物館共催)

博物館の学芸員が、日頃の研究の成果をわかりやすく紹介します。

### ★自然博物館担当

11月12日 田 『市川のさかな』 学芸員 金子 謙一

海・川・湧水と水環境に恵まれた市川に生息する魚類の現状を紹介いたします。

11月26日 田 『大町自然観察園の鳥類相と季節変化』 学芸員 須藤 治

定期的を実施している鳥類センサス調査の結果から、自然観察園を訪れる鳥たちの様子を紹介します。

### ★その他の日程

10月29日 田 『お寺に丸ごと買われた村の話』 湯浅 治久 (歴史博物館)

11月5日 田 『市制施行の頃の市川』 小野 英夫 (歴史博物館)

11月19日 田 『ジェラード・グロート神父と日本考古学研究所』

領塚 正浩 (考古博物館)

12月3日 田 『下総国分僧寺跡の発掘』

山路 直充 (考古博物館)

会場：市川公民館

(JR市川駅北口より徒歩8分)

定員：40名

時間：午後6時30分～8時

受講は無料です。

各回ごとに歴史博物館

まで電話でお申込みください。

歴史博物館 ☎0473(73)6351

市立市川自然博物館だより

第6巻 5号 (通巻第34号)

発行日/平成8年10月1日 (偶数月発行)

編集・発行/ 市立市川自然博物館

〒272 千葉県市川市大町 284番地

☎ 0473(39)0477

